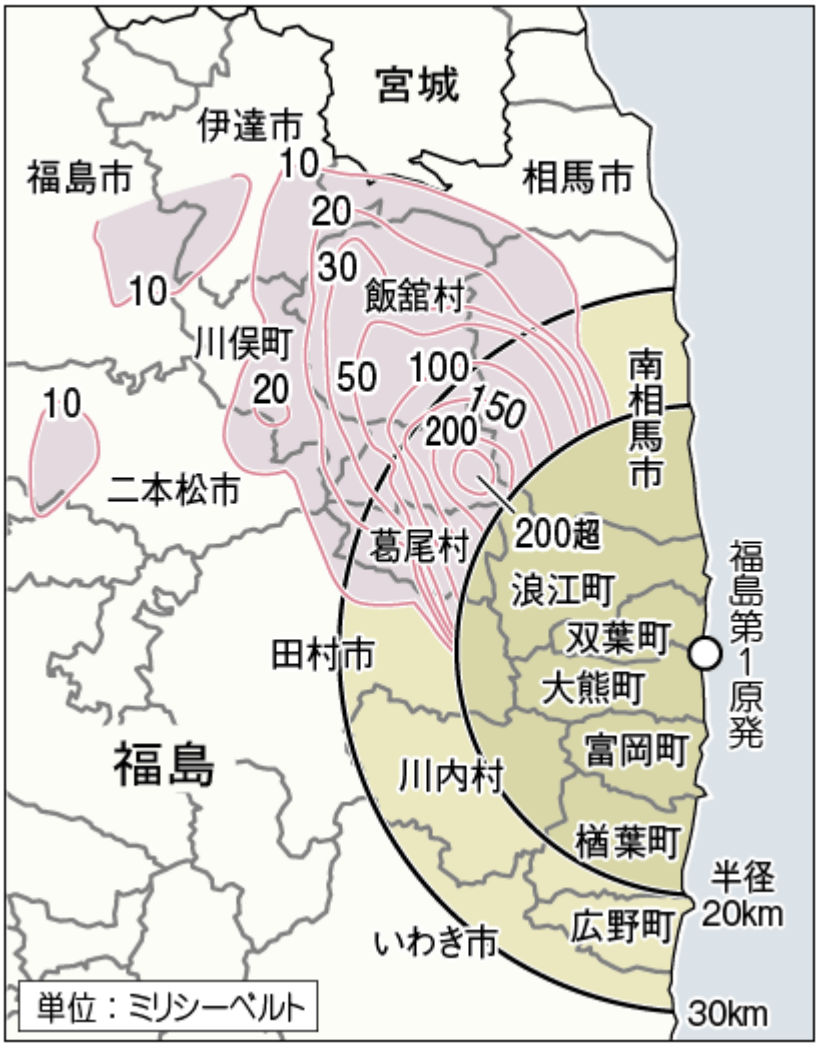
添付資料③

時事ドットコム　2011 年 4 月 11 日掲載記事より

（http://www.jiji.com/jc/v?p=ve_soc_jishin-higashinihon20110411j-07-w430&rel=y&g=tha）



原子力安全委員会は１１日、福島県内の５３地点について、先月１２日～今月５日の大気中の放射線量の推計積算値を発表した。毎日８時間屋外にいた場合、福島第１原発から２４キロ北西に位置する浪江町赤宇木椚平で、最大の３４．０ミリシーベルトに達していた。

安全委によると、現時点の線量が続くと仮定した場合、椚平では東日本大震災発生から１年が経過する来年３月１１日には３１３．９ミリシーベルトに達すると推計。健康に影響を与える可能性が高まるとされる１００ミリシーベルトを上回る。

ただ、安全委は放射性物質は今後、時間の経過とともに減少するほか、雨などで地表から洗い流されることでも減るとしている。

今月５日までの推計積算値は、浪江町の他の６地点で１．７～２０．３ミリシーベルト（来年３月１１日時点では１３．０～１５４．８ミリシーベルト）、飯舘村の４カ所は１．５～１１．１ミリシーベルト（同１５．３～９１．１ミリシーベルト）。福島市の３カ所は０．４～２．１ミリシーベルト（同２．４～１６．８ミリシーベルト）。

１年間の推計積算値は計１２カ所で、２０ミリシーベルトを上回った。安全委は政府原子力災害対策本部に対し、こうした地域を計画的避難区域に指定するよう求めた。現在の屋内退避区域のうち、緊急時避難準備区域に移行する地域について、安全委は「引き続き自主的避難が求められる。子ども、妊婦、入院患者などは区域内に入らないよう強く求められる」との見解を示した。安全委によると、屋外に８時間、木造家屋内に１６時間いるとの条件で放射線量を推計した。２４時間屋外にいたと仮定すると１．７倍の値となる計算で、椚平では今月５日までの積算値は５７ミリ、来年３月には５２３ミリシーベルトに達する。

作成: 聖路加看護大学聖路加看護大学　福島県災害支援プロジェクト運営委員会